



令和7年度 7月号 川口市立辻小学校

令和7年7月1日

辻小学校だより

学校教育目標

○学ぶ子（知）

○やさしい子（徳）

○元気な子（体）

デジタルと上手に付き合おう

～デジタルを上手に活用できる良き社会の担い手となる～

校長 近藤 百合

梅雨入りになったと思ったとたん、真夏を思わせる気候になった6月でした。気温の上昇で外遊びも思うようにできない中、温度や湿度と相談しながら水泳学習に取り組みました。プールからは子供たちの元気な声も響き渡り、楽しく学習を進めることができました。しかしながら7月は気温がさらに上昇することが見込まれます。子供たちの命を守るという観点から水泳学習の中止も多く見込まれます。「暑いときにプールに入れないなんて」という声も聞かれそうですが、昨今の気温上昇は命を脅かすほどの危険があることをご理解いただければと思います。

新年度が始まり、早3ヶ月。気が付けば、1学期もあと14日間で終了です。子供たちにとっては待ちに待った夏休みも近づいています。

さて、今年度も辻小学校ではGIGA端末（タブレット）を活用した学びを推進しております。日々の学習において、タブレットを活用する場面（協働的な学びや調べ学習）が増え、子供たちの探求心や表現力が大きく育っていることを実感しています。ICT機器は、もはや特別なものではなく、鉛筆やノートと同じように、子供たちの学びを支える大切なツールとなっています。またAI（人工知能）の目まぐるしい発展など子供たちを取り巻く環境もICTが深く関わるようになっていきます。今やICT機器を使いこなすことは当たり前になっています。

最近よく学校現場で使われている、「デジタル・シティズンシップ教育」をご存じでしょうか。「デジタル・シティズンシップ」とは「情報技能の利用における適切で責任ある行動規範」を指します。テクノロジーに関する倫理的・文化的・社会的問題を理解し、責任をもって、かつポジティブにそれを利用するための規範のことです。主に教育現場で子供たちが適切に情報テクノロジーを利用するための規範や子供たちにそのことを教える内容のことなのです。

現代社会においては、ICTの活用は必須となっています。特に子供たちは生まれたときからデジタル環境に触れているいわゆる「デジタル・ネイティブ世代」といえます。

先ほども書きましたが、ICT活用に関しては以前から様々なトラブルの危険性が指摘されてきました。特に日本では「情報モラル」という考え方が広く浸透し、学校でも「情報モラル教育」を積極的に行ってきました。しかし、「情報モラル教育」は「こうならないように考え、気をつけましょう。」と子供たちの行動の自制を促す場合が多くみられます。もちろんそういった教育は必要ですが、自制していくとICTの利活用が否定的にとらえられてしまいがちになります。

こういった中で「デジタル・シティズンシップ教育」が注目されるようになりました。デジタル社会において「良き社会の担い手」を目指すことが「デジタル・シティズンシップ教育」だからです。「世界を生きる市民の一人として、どのような資質・能力が必要か、どのようにふるまうのが善いことなのか」を踏まえて、デジタルツールを用いて責任ある市民として社会に参加するための知識や能力を学ぶことがまさに「デジタル・シティズンシップ教育」なのです。

現代においてデジタルは便利なツールです。これだけ便利なものをなくすことはできません。だから子供たちには「デジタルと上手に付き合う方法」を学ばせなければなりません。

子供たちは「禁止」をすることだけでは、なぜそのことがいけないのかを理解できません。学校でも家庭でも子供たちが「デジタルをどのように活用するのか」を考えていける環境をつくりながら「デジタルを上手に活用できる良き社会の担い手」となるように支援していきましょう。

辻小学校のホームページを是非、ご覧ください。

学校の教育活動等随時、更新しております。「辻小学校」で検索いただくか、右のQRコードからも、閲覧することができます。

子供たちの日常的な学習の様子もご覧ください。

学校ホームページ <http://tujisyou.official.jp/>

